
カイビルのマツカサガイとオバエボシガイへの 寄生例

中野 隆文¹・辻 寛人²

¹京都大学理学部 2 回

²京都大学農学部 3 回

カイビル *Hemiclepsis kasmiana* は本州・四国・九州の池や沼に産する小型のヒル ([丘・長尾, 1965](#)) で ([図 1.](#)), 二枚貝に寄生することが知られており, その宿主としてイシガイ科 Unionidae に属する, カラスガイ *Cristaria plicata* ([長尾, 1973](#) : [Oka, 1910](#) : [丘・長尾, 1965](#)) とドブガイ属 *Anodonta* の貝 ([Oka, 1910](#)) が報告されている. 今回, ヒル類の採集において, カイビルの上記 2 種以外のイシガイ科の貝, マツカサガイ *Pronodularia japonensis* とオバエボシガイ *Inversidens brandti* への寄生を確認したので報告する.

観察されたのは 2008 年 2 月 19 日, 岐阜県岐阜市大学北に流れる村山川 (北緯 35°28.3'・東経 136°43.5') においてで, 川はコンクリート三面張りであるが, カイビルが観察された箇所は泥が堆積していた. 水深は非常に浅く, 堆積物が露出している所もあった.

カイビルはマツカサガイとオバエボシガイの生体に寄生しているのが確認された他, 同 2 種の死体に吸着しているものも確認された ([図 2.](#)). 同所には, 同様にイシガイ科に属するイシガイ *Unio douglasiae nipponensis*, トンガリササノハガイ *Lanceolaria grayana* とカタハガイ *Obovalis omiensis*, そして別目シジミ科 Corbiculidae のタイワンシジミ *Corbicula fluminea* の生息が確認されている. しかし, 今回の調査ではトンガリササノハガイとカタハガイは貝殻しか確認できず, イシガイは見られなかった. またタイワンシジミはその生体が確認できたが, カイビルの寄生は見られなかった.

ヒル類は宿主特異性が低く, 複数種の宿主を有する種が多いが ([長尾, 1967](#)), しかしながら各ヒルの宿主の情報には十分ではないのが現状である. 今回のカイビルのマツカサガイとオバエボシガイへの寄生の確認は, 同種の宿主の新たな記録であると同時に, カイビルがイシガイ科の広範な種を宿主としていることを伺わせるものである.

今回の採集で得られたカイビルは液浸標本として, イシガイ科 4 種 (トンガリササノハガイ・カタハガイ・マツカサガイ・オバエボシガイ) の死体は乾燥標本として中野が



図 1. 今回の採集で得られたカイビル.



図 2. マツカサガイの死体に吸着しているカイビル (矢印).

保管している.

引用文献

長尾 善. 1967. D. 第4綱ヒル類 Hirudinea. p. 231. 内田 亨 (監) 動物系統分類学 6. 中山書店, 東京.

長尾 善. 1973. ヒル類 Hirudinea. p. 360. 上野益三 (編) 日本淡水生物 4 版. 北隆館, 東京.

Oka, A. 1910. Synopsis der japanischen Hirudineen, mit Diagnosen der neuen Species. Annot. Zool. Japon. 7: 165-183.

丘浅次郎・長尾 善. 1965. カイビル. p. 568. 岡田 要・内田清之助・内田 亨 (監) 新日本動物図鑑 [上]. 北隆館, 東京.

2008年2月24日受理